

低コスト林業への取組について
－伐採・搬出・植栽を一体化した事業発注を実施して－

近畿中国森林管理局 広島北部森林管理署
三次森林事務所 首席森林官 弘兼 光秀
一般職員 西田 一紀

1 課題を取り上げた背景

戦後のスギ・ヒノキ人工造林地の多くが、主伐期を迎えてきている一方、材価低迷、育林コストの高騰等により伐採後の再造林放棄地問題、さらには、偏った齢級構成により木材の安定供給への不安など、森林の持続的経営が危惧されています。

そのため、育林コストを抑え再造林を促す低コスト再造林の各プロジェクトが、各機関において実証されてきています。

また、平成25年度の局署の重点取組においても、「低コスト造林の推進」を掲げその取組を行ってきているところで、今後は事業実行を行い、その取組を検証しつつ、国有林が先導してその推進を図っていく必要があります。

2 取組の経過

従来の伐採（主伐）～植栽までの作業方法は、立木販売により立木の買受者が伐採等を行い搬出完了後において、異なる造林請負者が地拵、植付を行っていました。そのため、伐採し集造材した後の枝条の多くは林地に残存しているなど、伐採跡地の実態に応じた造林請負発注を行ってきていました。

このような中、平成25年度の当署の事業として、伐採（主伐）から植栽（コンテナ苗・セラミック苗）までを同時に契約して行う「一貫作業システム」を取り入れた低コスト造林事業を初めて実施しました。事業発注にあ

たっては、ヒノキ林内に切捨てた間伐木が腐朽せず残存していたほか、ヒノキ根元部に鹿の剥皮被害、ヒノキ林内の一部に広葉樹の繁茂等が見受けられたりと、林地残材が多く生じると予測され、無地拵で植栽することが懸念されました。

3 実行結果

コンテナ苗、セラミック苗を使用した植栽を行っても、無地拵で実施した場合、林地残材が多いと植付工程が悪くなり、あまり低コストには繋がらない旨の報告もされています。

そのため、林地残材を少なくする作業の工夫として、その集材方法、低質材のシステム販売等新たな販路拡大、更新困難な広葉樹箇所の立木の残存等により、林地残材を極力少なくし無地拵での植栽が効率的に可能となるよう工夫を行った結果、地拵相当分のコスト削減はできたと考えます。



林道周辺の全木集材等の状況



植栽器具による植付状況

4 考察

一貫作業システムでの事業は初めての試みであり、今後の生育状況を見ながら、活着率、下刈方法や回数等引き続きトータルでコストの省力化を検証していく必要があります。

将来にわたって国産材の安定供給をしていくためにも、偏った齢級構成の均衡化を図りつつ、国有林が先導し、多種多様な条件に応じた低コスト林業の普及の一助にできればと考えています。